

## AED(エーイーディー)

最近よく見かけるようになったAEDのステッカー。そこにAEDが設置されているという印です。開設時からAEDを置いているアウルも、この春から玄関先にAEDのステッカーを貼っています。

AEDは、自動体外式除細動器とも呼ばれ、心室細動を

起こし止まってしまった心臓に電気ショックを与えて蘇生させる医療機器です。こう書くと専門家しか触れないような気がしますが、使い方は自動音声ガイドしてくれるので、使用経験のない人も扱えます。

心室細動の発生から心臓蘇生までの時間が短ければ短いほど救命の確率は高まりますから、突然倒れた人には一



刻も早いAEDでの応急処置がとても大切です。

アウルのAEDは地域の方々にも開かれています。お近くで必要な事態が発生したときは、ぜひお声がけください。

### スタッフ リレーエッセー

#### 幸運な男

今回この原稿を書くのにあたり、自分はどんな人間なのか、珍しく真面目に考えてみました。そこで思い出したことは、自分には、思い悩んだときに、必ずと言っていいほど、手を差し伸べてくれる、家族、友人、同僚、近所のおじさんまでがいてくれたということ。

そんな周りの人たちに、自分はどれだけ助けられてきたことか…。運の良い「苦労」知らずの自分が「不苦労の家」アウルコートに住みかを見つけて1年と10カ月。またまた自分を助けてくれる職場の仲間たちに出会いました。そんな自分の強運?

介護科長 松下弘司



に驚きつつ、その優しさに甘えることなく、日々少しずつでも成長していけたら、と思っています。

#### 今日のらんこ

これもおいしいかも?

アウルコートのいやし課長 キャバリアの「らんこ」です



#### 入居相談 受付中

ご見学やご相談は随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

フリーダイヤル 0120-916-768

●介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)

#### アウルコート真駒内

〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3  
TEL.011-588-1122 FAX.011-588-1133

- 地下鉄南北線「真駒内」駅下車
- じょうてつバス「真駒内駅前」停で真駒内線に乗り(約5分)「南町4丁目」下車(徒歩約4分)

アウルコート真駒内  検索 <http://www.owlcourt.jp>



# ふくろうの家 その15 2010年6月 だより

●発行/株式会社私の青い空  
●編集/アウルコート真駒内広報室 〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3 ☎011-588-1122



## 『星をつくった男』

代表取締役 武田 治信

4月が過ぎ、新しい年度がスタートしました。3月は別れの月、4月は出会いの月、結構大変な時節ですが、全国的には桜もはじけ多くの花もはじけ(札幌では5月ですが…)、陽の光も少しずつ長くなってまいりました。前号にも書きましたが、つくづく時の流れの速さを感じます。

先日、重松清さんが書かれた『星をつくった男 阿久悠と、その時代』を読みました。阿久悠という作詞家の生涯を時代背景とともに語っていました。綿密で丁寧な取材を感じ、面白かったので少しご紹介いたします。本の出だしは代表作のひとつ『津軽海峡・冬景色』の青森の景色から始まります。阿久さんは昭和12年に淡路島で生まれ、大学卒業後、広告代理店に就職。仕事では企画書を書き、30歳にして作詞家デビューを果たしました。1970年代は次から次へとヒット曲を出し、

レコード大賞を5度も受賞しました。

5,000曲もの詩を残し、ひたすら「言葉を紡いだ人生」は、いわば「言葉の魔術師」でした。時代を見ることを最重視し、いつの時代もその時代なりの感性で受けとめられるものとして“詞”への力点があったのでしょうか。今はiPodとか小さな機械でヘッドフォンの音を聴くようになり、街に歌が流れなくなりました。そんな時代にあっても阿久さんは「時代を思い出す最初の扉が歌であればいい」と語られていました。

「歌は時代を語り続けた」「歌は時代の飢餓を満たす」「ヒット曲は時代を叩く歌」と阿久さん。この時代をさかのぼると、必ずどこかで阿久さんの歌を聴いていた気がします。2007年8月1日永眠。死後見つかったメモ、「逆境を好機に変える天才」。やすらかに。

家具付き部屋で暮らしを実感。  
モデルルームがオープン

ご入居をご希望の方が、アウルでの暮らしをよりご実感いただけるよう、3月11日より家具を備えたモデルルームを設けました。お部屋は1階の一人様用居室タイプA。一人掛けチェアやテーブルのほか、冷蔵庫やカーテンなど実際の生活に必要なものを配置し、居住環境を体感することができます。見学は随時受け付けていますので、お気軽にご連絡ください。



●2/3(水)

節分に初めての豆まき

ご入居者の声にお応えし、初めて豆まきを実施。鬼に扮した職員への豆つぶて後は、「ごめんなさいね。痛かったでしょ」と。皆様、お優しい。



●3/9(火)

作品コーナーを開設

レストランの一角に、ご入居者の力作や思い出の品を展示するスペースを設置。点数は日々増加中で、作品から談笑の輪が広がるうれしい効果も。



●3/19(金)

ドーナツづくり

調理中から弾む会話とおいしいおやつで大好評のお菓子づくり。今回はドーナツに挑戦。アイスクリームを添えた一品は、プロ顔負けの出来映えでした。



●3/20(土)

ヒップホップダンス!

小学生から高校生までのダンスチーム「ワンドリーム」が、ヒップホップダンスを披露。はつらつと元気な孫世代からたくさんのパワーをもらいました。



かつて楽しんだお洒落な外食タイムをアウルでも  
ホテルランチで特別な時間を満喫

何歳でも車椅子でも  
これまでと同じで

アウルで外食行事を企画する際は、ご入居者様の負担を考慮し、近くてバリアフリーという店舗優先の選択をしていました。今回のホテルランチは、昨年行ったお客様満足度調査の結果から生まれた初の試み。料理優先でお店を選びおいしいものを食べるという「これまで通りの外食をアウルでも」とのご要望にお応えしました。

両日とも車椅子のご入居者様が参加されましたが、「私たちがお手伝いすれば、お連れできるとわかりました」と武田ひろみ施設長。職員が常駐するアウルだからこそできるサービスとも言えます。参加された方々の高評価に加え、ホテルマンのホスピタリティに同行職員が多くを学ぶ余得もあり、ホテルランチは恒例行事となりそうな気配です。

和食堂「松風」にてお好みのランチメニューを味わいました。

好天に恵まれた初日は、素晴らしい眺望に料理のおいしさも倍増。普段はアルコールを召し上がらない方も、ワインやビールでほんのり頬を染め、特別な時間を満喫しました。2日目はカジュアルな趣でのランチ。ボリューム感のあるメニューも、残されることなくほぼ完食され、特にお刺身が好評でした。



よそ行き気分で  
ホテルのお食事

おいしい食事と愉快なおしゃべりは、豊かな人生の大切な要素。ちょっとおめかしをして、気の置けない友だちと、お洒落なホテルレストランでおいしい料理に舌鼓を打つ。そんなひとときは、いくつになっても楽しいものです。

4月27日(火)と28日(水)の両日、アウルコート真駒内ではホテルランチを楽しむ外食行事を実施しました。洋食と和食に分けてご希望を募り、初日はプリンスホテル最上階のフランス料理店「トリアノン」にてコース料理を、2日目は同ホテル2階の

